

令和 2 年 7 月 8 日現在

機関番号：24403

研究種目：基盤研究(B)（海外学術調査）

研究期間：2016～2018

課題番号：16H05666

研究課題名（和文）被災者支援レジーム／復興まちづくりの国際比較研究 - ジェンダーの視点から

研究課題名（英文）International Comparison Study on Natural Disaster Victims Relief Regime / Post-Disaster Recovery and Culture by Gender Perspective

研究代表者

山地 久美子（YAMAJI, KUMIKO）

大阪府立大学・人間社会システム科学研究科・客員研究員

研究者番号：20441420

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 11,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は日本・韓国・台湾・米国・ニュージーランド・イタリアの自然災害被災地（阪神・淡路大震災、東日本大震災、熊本地震、ソウル市、江原道、ハワイ州、クライストチャーチ市）において長期継続調査を実施し、被災者・支援者、行政、メディアへのインタビュー、資料収集、分析を実施した。現地の研究者らと国際共同研究や意見交換会を開催し、その知見は4年間で国際会議、学会報告、論文、報告書、書籍、新聞記事、テレビコメンテーター等で発表している。また、国際シンポジウム／国際共同研究会／国際意見交換会、ワークショップ、女性の復興カフェ、復興音楽カフェ、語り部パネル展等を研究者、被災者らと開催し復興の実践にも繋げている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では現地の研究者らと国際共同研究や意見交換会を開催し知見を共有している。その研究を通じて、日本の災害支援制度が手厚いのは平時の支援に課題がある事がニュージーランドの復興支援調査等から明らかになった。米国ハワイ州での調査は国や社会によって災害の種類と対応の優先順位が異なり、市民生活における災害への備えは文化的文脈も含めることが求められるが明らかになった。これらは経済や社会保障含む生活水準を踏まえて検討できる先進国の災害復興比較研究であることが重要になる。このような学際的な研究者、被災地の方々との協働・長期的な共同調査が本研究の特徴の一つで、それにより類のない学術的、社会的意義を持っている。

研究成果の概要（英文）：In this study, we carried out a long-term follow-up survey in the natural disaster affected areas such as Great Hanshin-Awaji Earthquake, Great East Japan Earthquake, Kumamoto Earthquake, Seoul City, Gangwon Province, Hawaii Island, Oahu Island, and Christchurch City of Japan, South Korea, Taiwan, the United States, New Zealand, and Italy, and conducted interviews, material collection, and analysis of the survivors, supporters, public administration, and media. International collaborative research and exchange meetings are held with local researchers, and the findings are presented in international conferences, conference reports, papers, reports, books, newspaper articles, television commentators, etc. during the project. The symposium, workshop, reconstruction talk, reconstruction cafe for women, reconstruction music cafe, panel exhibition of storytellers were also held with survivors that is special feature of this project.

研究分野：社会学

キーワード：被災者支援レジーム 復興まちづくり 国際比較（韓国・台湾・米国・NZ・イタリア） ジェンダー
／家族 社会保障・住宅 復興／防災 阪神・淡路大震災／ 災害語り部

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

災害からの復興には誰もが生活者として再建を実現し復興まちづくりに主体的にかかわる事が必要である。ジェンダーの視点からの復興における具体的施策には段階的、長期的な取組が必要となり、そのためには5年、10年、20年を超える長期的なスパンでの調査・対策が求められる。日本の防災・災害リスク軽減におけるジェンダーは、東日本大震災の経験から法制度、政府レベルにおいて著しい取組、展開があり、その背景には研究者、女性団体らの数年かけた政府への力強い働きかけがあった。しかしながら、復興に向けた具体的な施策提案にまでは至っていない。

2. 研究の目的

本研究は「復興」に焦点をおいた長期的、国際的な調査研究であり、国際比較によって得た知見からそれぞれの社会における具体的な法律・施策の提案が実現できる点に特色がある。災害からの円滑な復興の実現は、平時のまちづくりの延長線上にあるかどうかの影響する。これまでジェンダーの視点からそのような連続性のある復興の制度・政策についての研究はなされていなかった。そこで国際比較の視点で災害復興を調査し、日本のジェンダーにおける課題を明らかにするため社会学、法学、建築学・都市計画など復興に必要な工学分野の研究者や専門家、被災者自身との協働も含めて多面的にアプローチした。研究の要として国際比較研究があり、海外の研究者と共に段階的、継続的な被災地の国際比較調査を実施することで個人/家族/コミュニティ、それぞれの復興に効果的な制度・政策を検討すること目的とした。

3. 研究の方法

本研究は被災時、復興時の段階に沿って、継続した国際比較調査が特徴で、各国の被災地(日本・韓国・台湾・米国・ニュージーランド・イタリア)においてフィールドリサーチ、インタビュー調査、質問紙、資料調査を行った。各国・地域では政治、社会、文化的背景によって被災・復興状況、法律・施策が異なるため経年によって現れる課題点を抽出し、復興時から平時のまちづくりへつなぐ制度・政策を調査した。日本においては、2016年に発生した熊本地震、2018年水害被災地の調査を新たな調査地として加えた。研究者・協力者はこれまでにそれぞれの専門分野において被災地の調査研究、フィールドリサーチを実践しているため、それらの蓄積・ネットワーク復興、平時のまちづくりにおけるジェンダー課題の国際比較を進めてきた。プロジェクトは各国・各地域の研究協力者とともに遂行し、各々の調査に関する成果を発信してきた。

(1)国内の主たる被災地・国際比較

阪神 淡路 大震災	東日本 大震災	熊本 地震	韓国	台湾	米国	ニュージー ランド	イタリア
-----------------	------------	----------	----	----	----	--------------	------

(2)国際比較 海外被災現地調査

大韓民国(ソウル市・平昌郡・水原市)

2017年9月 山地久美子、北後明彦、山崎栄一

白眠浩教授、李咏根研究室長、金胄錫研究委員、李智香責任研究員

ニュージーランド(クライストチャーチ市)カンタベリー地震の復興調査

2018年11月山崎栄一、山地久美子、北後明彦

米国ハワイ州(ハワイ島・オアフ島)復興、災害対応調査・意見交換会

2018年5月 山地久美子

2019年12月 山地久美子、田間泰子、エリザベス・マリー

イタリア調査(ミラノほか)

2019年 伊田久美子

4. 研究成果

[研究代表者の調査研究：山地久美子]

日本と韓国・台湾・米国・ニュージーランドを中心に4年間、現地調査、共同研究を進めた。日本の阪神・淡路大震災/東日本大震災/熊本地震においてはシンポジウム、ワークショップ、復興カフェ等の開催を通じて研究者、専門家、被災者らと共に地域で協力関係を築きながら研究、考察を行った。国際比較研究では、国内での研究会開催の後、韓国で女性と都市に関する国際会議で意見を交わすとともに共同研究会、平昌郡での被災地継続調査を進めた。米国ハワイ州ではハワイ島のキラウエア火山噴火と津波避難、オアフ島で語り継ぎ、災害対応調査を行った。2018年にはニュージーランドで初めての調査を実施し、19年には神戸大学都市安全研究センターへ Rosemary Du Plessis 客員教授が招聘されたことから、阪神・淡路大震災と東日本大震災被災地において共同調査を実施し災害時と平時での社会保障制度の比較研究を調査してきている。日本・ニュージーランドの語り継ぎ調査を進め、日本語・英語での短編ビデオを作成中である。

復興におけるジェンダー

被災者支援や社会保険などの受給権から世帯主義の課題についてジェンダーの視点から考察を深めた。2019年末から世界的に広まった新型コロナウイルス感染防止対策とその支援からも労働、経済、社会給付受給権の男女の違いが表れている。

外国人で女性というダブルマイノリティの現状と課題について調査を進めた。外国人居住者の災害後の住宅移行が可視化されず、全体像がわからないこと自体が課題であった。

ニュージーランドでは Housing Manager (住居・居住支援者)、Cultural Manager (多文化理解支援者)の役割があり、この仕組みが日本において役立つと考えられる。

復興には事前対策、事前復興において法律、住宅など専門的な事柄がある。発災後の応急対策や支援策にかかる情報について提供の仕組みができつつあるが、誰もが事前にアクセスできるエンパワーメントが必要である。そこで支援にかかる法律や都市計画等の「事前復興ワークショップ」プログラムを女性に向けて組んだ。今後、調整の上、実践予定である。

[社会への発信]

「災害復興・生活再建の国際比較研究」と題して、当研究の学際的、国際的、長期的な研究内容と取組の重要性を文部科学省『平成 28 年文部科学白書』、日本学術振興会『科研費 2017』・『KAKENHI Grants-in-Aid for Scientific Research2017』同 18 年において発信する機会を得た。2018 年大阪北部地震の際にはテレビ大阪「やさしいニュース」と現地調査および出演、NHK、サンテレビ、熊本の放送局でインタビューが放映された。新聞においては新聞社との共同調査、記事、インタビュー・コメント、寄稿掲載など研究成果の社会への発信に努めた。

文部科学省「第 7 章 科学技術・学術政策の総合的推進」『平成 28 年文部科学白書』p.257

https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpab201701/1389013_014.pdf

「災害復興・被災者生活再建とジェンダーの国際比較研究」『科研費 NEWS』

https://www.jsps.go.jp/seika/2016/vol1_002.html

[研究分担者の調査研究：田間泰子]

本研究の成果は、放送大学 2020 年度開講科目『リスク社会の家族変動』に活かした。この科目は、印刷教材と放送教材（2020 年 4 月放送開始）からなる。同科目の問題意識として自然災害を含むリスクと家族との関係を念頭において編集しており、放送教材第 1 章で本科代表者の山地久美子を、最終章の第 15 章で東日本大震災を機に設立された NPO インクルいわての代表・山屋理恵さんをゲストに迎え、災害と家族や地域社会の課題を論じていただいた。2017 年には冊子『ママと赤ちゃんを守るいしのみまき流 5 つの出産準備』を完成、発行した。

「防災」のみを前面に出す冊子は、防災に特に関心のある一部の妊婦の関心を聴くだけで、平時の妊婦の関心をあまり引かないため、妊婦みんなに関心を持ってもらえるよう工夫する妊婦が居住する地域において、平時にエンパワーメントすることが最も重要であること。

- ・居住する地域をよく知ること、
- ・家族だけでなく妊婦やその他の人々と繋がる力を持つこと
- ・災害と減災に関して基礎的な知識と関心を特別なことではなく当然のこととして持つこと
- ・発災後、自ら妊婦であることを周囲に告げて援助を求める力や、他の妊産婦と助け合うことが大切と理解し、できるようになること。

冊子の完成版は、上記を可能にする工夫を各所に行うこと。ただ読むだけでなく、冊子を用いて具体的に能動的に何かを行うことができるよう、工夫すること。この冊子は宮城県石巻市を想定して作成しているが、他地域では、冊子の中の地域特定の情報了他地域のものに置き換えることによって同様に利用可能になるような、モデル的な構成として作ることを目的とした。

[研究分担者の調査研究：伊田久美子]

イタリアにおける災害復興とジェンダーを深めるため「イタリアにおける災害と社会研究会」を開催し、DVD「ドライキュイラ」(ラクイア地震の経験からイタリア社会を考察した風刺的映像)の内容分析を行った。上智大学日本学術振興会外国人特別研究員のイタリア人研究者よりイタリアのラクイア地震報告をいただくとともに、災害、政治にかんする議論を深めた。災害復興問題の専門家である、ミラノ聖心大学の教員で IDRA (Itstime Disaster Resilience Action: 災害復興アクション) 研究員へのインタビュー調査を実施した。イタリアの災害後の初期対策の充実近年日本でも知られるようになってきたが、protezione civile (市民保護) という対テロ対策などを含む全国レベルの危機管理体制の充実が災害への迅速かつ手厚い初期対応を可能にしていることがわかった。ただし、この分野には女性の参加が非常に少なく、世帯のプライバシーは守られているが、ジェンダー視点は必ずしも十分ではなく、また女性運動の関心も高くはなかったことがわかった。しかし新型コロナ対策においては専門家や対策チームに女性がいないことが多くの女性たちによって告発され、女性の参加を実現したことが報じられている。なお、調査結果を踏まえての災害復興に特化した報告は準備中である。

[研究分担者の調査研究：山崎栄一]

日本の災害対策基本法の条文から被災者支援のあり方に関する原理・原則を抽出した。また、被災者支援の場面においては、支援—配慮—参画という 3 つの要素が不可欠であり、これらを促進するためには個人情報活用の重要性であることを提唱した。被災者支援を特徴付ける権利として「アクセスされる権利」「忘れ去られない権利」を抽出することができた。これらの要素や権利というのは、女性にも当てはめることができ、災害時におけるジェンダー分析の指標になり得るものと思われる。被災者総合支援法の草案作業を実施する中で、被災者支援の基本理念、原理・原則の抽出・再構築が必要不可欠な課題になっており、検討を進めていった。また、これまでの被災者支援法制にはなかった仕組み〔オンブズマン制度、ニーズアセスメント、被災者の権利救済手続など〕の提言を行った。

ニュージーランドにおける実態調査において、ジェンダーに着目した具体的な調査対象として(1)Ministry of Women (女性省)、(2)National Council of Women of New Zealand. (ニュージーランド全国女性会議)、(3)カンタベリー日本人会、(4)Rosemary Du Plessis 氏 (カンタベリー大学客員准教授) に対してインタビューを実施した。カンタベリー地震においては、確かに災害時における女性のエンパワーメントが注目される一方、なかなか進展が進まない復興プロセスの中で埋没せざるを得なかった女性の存在も確認され、女性による災害復興の二

極化とそれに伴うジレンマが浮き彫りとなった。抽象的なレベルでの原理・原則、権利の抽出という作業に加えて、具体的レベルでの実態調査としては、在外研究という機会を活用した新たな復興事例の調査分析を図ることができた。在外研究先である Canterbury University と本研究プロジェクトのメンバーと Research Meeting など学術交流もできた。ニュージーランドは、世界的に見てもトップクラスの女性権先進国であり、さらなる国際比較研究の一拠点として今後における調査研究が期待される。

[研究分担者の調査研究：北後明彦]

ニュージーランドでの現地調査を機会にカンタベリー大学の社会学・ジェンダー研究者を神戸大学都市安全研究センター客員教授として2カ月間招聘し、阪神・淡路大震災、東日本大震災被災地にて共同調査を進め国際比較の視点で考察を深めてきている。

東日本大震災（宮城県石巻市、岩手県宮古市、山田町、釜石市の災害公営住宅等）

岩手県釜石市鶴住居地区では、かさ上げによる区画整理事業が長期化し、仮設住宅での避難生活も長期化している中で、将来の地域での生活を少しでもよくしようとする動きが見られる一方、行政からの地域での将来の生活に向けた詳細な情報開示が必ずしも進んでいない状況があった。宮城県石巻市雄勝地区では、今後の地域でのコミュニティの形成状況が注目される。

熊本地震は非都市部・農村型である益城町を中心に、東日本大震災の津波被害との違いを踏まえ災害直後の避難所調査を進めた。

豪雨水害における地域の災害からの実効性のある安全確保の考え方から予防的措置としての「予防的避難」および要配慮者利用施設における避難確保計画にかんして考察を深めている。

[研究会・シンポジウム・ワークショップ]

(1)国際比較・共同研究会・意見交換

2016年5月14日「台湾の復興まちづくり」邵珮君 長栄大学副教授（兵庫県神戸市）

2017年6月9日「米国の住宅復興」エリザベス・マリー 東北大学災害科学国際研究所

2017年7月14日「台湾の住宅復興」邵珮君 長栄大学副教授（兵庫県神戸市）

2017年9月27日「日韓災害研究会」白眠浩 江原大学教授ほか（大韓民国・ソウル市）

2017年9月29日「住民との意見交換会」白眠浩 江原大学教授ほか（大韓民国・水原市）

2018年11月18日「日新災害研究会」（ニュージーランド・カンタベリー大学）

2019年10月10日 International Research Meeting 1 New Zealand・日本（神戸大学）

2019年10月17日 International Research Meeting 2 New Zealand・日本（神戸大学）

2019年11月28日 International Research Meeting 3 New Zealand・日本（神戸大学）

2019年12月18日 International Discussion Hawaii・日本（米国・ハワイ島）

(2)災害復興にかかる研究会・シンポジウム・意見交換会

2016年6月10日「熊本地震の現地調査報告会」（兵庫県神戸市）

2016年9月26日「イタリアにおける災害と社会研究会」（大阪府立大学 I-site なんば）

2016年10月18日「外国人支援と防災・減災への取組み～熊本地震の経験から考える」

2017年2月11日「被災者支援制度の現状と課題」（兵庫県神戸市）

2017年3月9日「熊本地震の被災地益城町における住宅再建、住民主体の復興まちづくり
コミュニティ活動」（兵庫県神戸市）

2017年6月9日「防災・減災まちづくり研究会／意見交換会」（兵庫県神戸市）

2017年7月3日「防災・減災まちづくり研究会／意見交換会」（兵庫県神戸市）

2017年12月16日「災害時のアウトプットとしてのコミュニティ FM」（兵庫県神戸市）

2018年8月18日「ジェンダーと災害復興研究会」（兵庫県神戸市）

2019年3月23日「防災・復興を考えるシンポジウム」（兵庫県神戸市）

2019年4月22日「防災・減災まちづくり研究会／意見交換会」（兵庫県神戸市）

(3)被災地における住民との復興に向けた取組・シンポジウム・復興カフェ・トーク他

2017年2月25・26日「第2回全国被災地語り部シンポジウム in 西日本」（兵庫県淡路市）

2018年2月24・25日「第3回全国被災地語り部シンポジウム in 東北」（宮城県南三陸町）

2018年12月8-10日「第4回全国被災地語り部国際シンポジウム in 熊本」（熊本県・長崎県）

2020年2月24・25日「第5回全国被災地語り部シンポジウム in 東北」（宮城県南三陸町）

2017年1月6日「復興音楽カフェ／復興トーク」（熊本県益城町・西原村）

2017年1月7日「文化そして心の復興—つなぐ 熊本地震と阪神・淡路大震災」（熊本市）

2017年3月4・5日「復興音楽カフェ／復興トーク」（宮城県仙台市・名取市）

2017年1月27日「女性の復興カフェ in 気仙沼」（宮城県気仙沼市）

2017年8月23日「女性の復興カフェ in 気仙沼」（宮城県気仙沼市）

2020年2月23日「女性の復興カフェ」（宮城県気仙沼市）

2018年1月25-26日「被災地語り部ワークショップ」（熊本県益城町・熊本市）

2018年2月25日「伝える - 東日本大震災から7年、阪神・淡路大震災から23年」（南三陸町）

2018年11月8日・30日「復興カメラ教室」（熊本県益城町）

2019年6月1日「東日本大震災の復興をお伝えします」（熊本県益城町）

(4)パネル展示

常設展示 「全国被災地語り部の取組」（宮城県南三陸町 南三陸ホテル観洋）

2018年12月8日 「全国被災地語り部の取組」（熊本県熊本市）

2020年2月23-25日「伝える・その2 阪神・淡路大震災から25年」（南三陸ホテル観洋）

[メディアを通じた発信]

(1)新聞

- 2016年4月4日「震災の教訓 街が伝える」日本経済新聞朝刊 29面(山地久美子)
2016年6月23日「復興計画 女性の参画が必要」熊本日日新聞朝刊 29面(山地久美子)
2016年12月27日「被災地語り部 全国ネットに」読売新聞淡路版(山地久美子)
2017年1月4日「淡路で被災地語り部シンポ 2月開催」神戸新聞
<https://www.kobe-np.co.jp/rentoku/sinsai/22/201701/0009810098.shtml>
2017年1月8日「外国人の避難生活議論」熊本日日新聞朝刊 23面
2017年3月24日「全国被災地語り部シンポジウム in 西日本 体験と思い共有し」神戸新聞
2018年3月6日「地域防災『阪神』から提言 気仙沼」毎日新聞宮城版 25面(北後明彦)
2018年3月7日「二つの震災から地域防災を考える」河北新報(山地久美子・北後明彦)
2018年3月7日「地域や地区で防災計画を」三陸新報(山地久美子・北後明彦・金千秋)
2018年3月10日「語り部 横断的連携を」毎日新聞朝刊 17面(山地久美子)
<https://mainichi.jp/articles/20180310/ddm/010/040/018000c>
2018年4月8日「教訓普及後押し 熊本の団体、神戸の語り部と交流」神戸新聞朝刊 30面
2018年8月9日「育児で避難所控え 4割超」西日本新聞 web(山地久美子)
<https://www.nishinippon.co.jp/item/n/440025/>
2018年11月8日「被災体験世界へ発信 語り部シンポ開催へ」(山地久美子)
2018年11月8日「被災体験 世界に発信 熊本市 語り部シンポ開催」熊本日日新聞朝刊
2018年11月15日「震災『語り部』利用激減活動岐路に」神戸新聞 27面(山地久美子)
<https://www.kobe-np.co.jp/news/sougou/201811/0011821627.shtml>
2018年12月9日「被災体験を共有—熊本で語り部シンポ」朝日新聞朝刊 31面
2018年12月9日「災害の経験防災に生かす 熊本市で全国被災地語り部シンポ 高齢化人口減...課題を議論」西日本新聞
<https://www.nishinippon.co.jp/item/n/471756/>
2018年12月15日「被災の記憶 次世代へ継承」【特集】熊本日日新聞朝刊 16・17面
2018年12月18日「災害の記憶と教訓を未来へ」聖教新聞 12面
2019年3月8日「遺構保存はなぜ難しいのか」時事ドットコムニュース
<https://www.jiji.com/jc/v4?id=20190311shinsai8years0002>
②12019年3月15日「語り部のつながりを淡路市の団体が国際シンポ開催」神戸新聞朝刊 7面
②2019年3月26日「語り部のつながりを 淡路市の団体が国際シンポ開催」東京新聞 web
③2019年4月5日「災害公営住宅 ペットと共に」朝日新聞朝刊 28面(山地久美子)
<https://www.asahi.com/articles/ASM1B0GH6M19TLVB01D.html>
④2019年10月27日「災害伝承 外国人視点で 研究者らが公開講座(南三陸町)」三陸新報
(Rosemary Du Plessis・山地久美子)
⑤2019年11月22日「災害の伝承 海外と共有南三陸」河北新報朝刊 18面
(Rosemary Du Plessis・山地久美子)
⑥2019年12月25日「阪神大震災 25年 語り部 6割 70歳以上 若い世代の育成急務 神戸大など調査」毎日新聞朝刊 1面(西日本版)(山地久美子)
<https://mainichi.jp/articles/20191225/ddn/001/040/001000c>
⑦2019年12月26日“Majority of Japan's 1995 Hanshin quake storytellers aged at least 70: study” The Mainichi (山地久美子)
<https://mainichi.jp/english/articles/20191225/p2a/00m/0na/020000c>
⑧2020年1月17日「あの日から 9132日工夫しニーズに対応」(山地久美子)毎日新聞朝刊
<https://mainichi.jp/articles/20200117/ddm/010/040/019000c>
⑨2020年3月6日「震災9年 語り部連携 語り合う」読売新聞朝刊
⑩2020年3月11日「復興調査から見えてきたこと」(寄稿)聖教新聞 7面
⑪2020年3月28日「震災人脈 結び・次代へ災害の悲しみ繰り返さない」神戸新聞
<https://www.kobe-np.co.jp/rentoku/sinsai/25/rensai/202003/0013228720.shtml>
<https://www.kobe-np.co.jp/rentoku/sinsai/saikan/>(特集 URL)(山地久美子)

(2)テレビ 出演・コメント

- 2018年6月19日テレビ大阪やさしいニュース「大阪北部地震」出演(山地久美子)
2018年6月27日テレビ大阪やさしいニュース「大阪北部地震」コメント(山地久美子)
2018年11月8日RKK NEWS ジャスト「町の復興アルバムに住民たちに撮影テク伝授」
2018年12月8日NHK ニュース「災害の教訓語り継ぐ」熊本市で「語り部」シンポジウム
https://www9.nhk.or.jp/archives/311shogen/detail/#dasID=D0007060866_00000
2020年3月14日NHK EテレTVシンポジウム「震災の記憶をどう伝え活かすか」コメント

(3)その他

- 『熊本地震の現地調査報告会 阪神・淡路 - 中越 - 東日本の経験と女性の視点』2016年7月
『テクノ仮設団地と復興の毎日 - 復興カメラ写真講座』2019年5月

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計31件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 24件）

1. 著者名 山地久美子・北後明彦・山崎栄一	4. 巻 23
2. 論文標題 ニュージーランド・クライストチャーチの2011年カンタベリー地震からの復興調査報告	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 神戸大学都市安全研究センター研究報告	6. 最初と最後の頁 143-148
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 山地久美子	4. 巻 5
2. 論文標題 グレーター・クライストチャーチ / ニュージーランド カンタベリー地震後の復興と仮住宅の検討	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 第5回震災問題研究交流会研究報告書	6. 最初と最後の頁 23-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 山地久美子	4. 巻 23
2. 論文標題 安心安全な地域社会の構築に向けた災害経験を「伝えて、学ぶ」地域連携の取組 その2	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 神戸大学都市安全研究センター研究報告	6. 最初と最後の頁 128-142
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 山地久美子	4. 巻 24
2. 論文標題 安心安全な地域社会の構築に向けた災害経験を「伝えて、学ぶ」地域連携の取組 その3	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 神戸大学都市安全研究センター研究報告	6. 最初と最後の頁 127-146
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 伊田久美子	4. 巻 27
2. 論文標題 資本主義批判としてのフェミニズム：1970年代と今日のイタリアにおけるゼネラル・ストライキ運動	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 女性学研究	6. 最初と最後の頁 1-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) doi/10.24729/00016826	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 伊田久美子	4. 巻 26
2. 論文標題 労働としてのセクシュアリティ：再生産労働論の再検討	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 女性学研究	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) doi/10.24729/00004801	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Zhila Pooyan, Akihiko Hokugo	4. 巻 23
2. 論文標題 A Study on Recovery Approaches: Developing Safer Communities considering Pre-event and Post-event Trends	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 都市安全研究センター研究報告	6. 最初と最後の頁 90-97
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山崎栄一	4. 巻 135
2. 論文標題 避難所・避難生活に関する法制度	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 消防防災の科学	6. 最初と最後の頁 13-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 豊田利久・金子由芳・本荘雄一・山崎栄一	4. 巻 10
2. 論文標題 ニュージーランドにおける災害復興制度 現地調査を踏まえて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 災害復興研究	6. 最初と最後の頁 63-79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山崎栄一	4. 巻 11
2. 論文標題 被災者総合支援法・要綱案 解説ならびに論点	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 災害復興研究	6. 最初と最後の頁 9-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Rosemary Du Plessis	4. 巻 24
2. 論文標題 Disaster Response and Recovery Strategies in Japan and New Zealand - Research Report	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 都市安全研究センター研究報告	6. 最初と最後の頁 147-160
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山地久美子	4. 巻 平成28年度
2. 論文標題 災害復興・生活再建の国際比較研究	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 平成28年度文部科学白書	6. 最初と最後の頁 257
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpab201701/1389013_014.pdf	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山地久美子	4. 巻 2017
2. 論文標題 災害復興・生活再建の国際比較研究	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 科研費2017	6. 最初と最後の頁 35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/24_pamph/data/kakenhi2017.pdf	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 YAMAJI Kumiko	4. 巻 2017
2. 論文標題 International Comparative Research on Recovery and Livelihood Reconstruction of Disaster Victims	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 KAKENHI Grants-in-Aid for Scientific Research2017	6. 最初と最後の頁 35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://www.jsps.go.jp/english/e-grants/data/kakenhi_pamph_e.pdf	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山地久美子	4. 巻 第20号 (Vol.8 No.2)
2. 論文標題 多様性を防災力向上へつなげるためにー防災の主体としての在日・訪日外国人対応	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 復興	6. 最初と最後の頁 46-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://f-gakkai.net/uploads/gakkaiishi/20-1-8.pdf	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山地久美子	4. 巻 22
2. 論文標題 安心安全な地域社会の構築に向けた災害経験を「伝えて、学ぶ」地域連携の取組	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 神戸大学都市安全研究センター研究報告	6. 最初と最後の頁 104-114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://www.rcuss.kobe-u.ac.jp/publication/publication.html	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 伊田久美子	4. 巻 2018年4月号
2. 論文標題 多様性に開かれた変革の思想：フェミニズム	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 52-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊田久美子	4. 巻 25
2. 論文標題 「歴史」をめぐる政治：イタリア・フェミニズム運動の新展開	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 女性学研究	6. 最初と最後の頁 82-97
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山崎栄一	4. 巻 29
2. 論文標題 分科会4 災害復興法学の可能性	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 JSDRR Newsletter	6. 最初と最後の頁 3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://f-gakkai.net/uploads/newsletter/jsdrr029.pdf	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 金千秋	4. 巻 第20号 (Vol.8 No.2)
2. 論文標題 被災地の復興における地域メディアFMが果たす役割 阪神・淡路大震災から始まった多言語放送とエンパワメント	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 復興	6. 最初と最後の頁 37-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://f-gakkai.net/uploads/gakkaiishi/20-1-7.pdf	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山地久美子	4. 巻 1
2. 論文標題 災害復興・被災者生活再建とジェンダーの国際比較研究	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 科研費NEWS	6. 最初と最後の頁 5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/22_letter/data/news_2016_vol1/p05.pdf	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山地久美子	4. 巻
2. 論文標題 災害復興・生活再建の国際比較研究	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 文部科学白書	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 YAMAJI Kumiko	4. 巻
2. 論文標題 Disaster Situation and Plan for Reaction for Japan Rural Villages	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 国際シンポジウム農村地域災害安全改正方案(韓国語)	6. 最初と最後の頁 53-95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山地久美子	4. 巻
2. 論文標題 被災地の状況と課題 これからの復興と南海トラフに備えて	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 熊本地震の現地調査報告会報告書	6. 最初と最後の頁 1-2
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 伊田久美子	4. 巻 20
2. 論文標題 新自由主義とフェミニズム：女性主体の視点から	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 ジェンダー研究	6. 最初と最後の頁 35-44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田間泰子編著、NPO法人ベビースマイル石巻協力	4. 巻
2. 論文標題 ママと赤ちゃんを守るいしのまき流5つの出産準備	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 ママと赤ちゃんを守るいしのまき流5つの出産準備	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 山崎栄一	4. 巻 47
2. 論文標題 災害時における個人情報の利活用	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 自治体法務研究	6. 最初と最後の頁 16-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山崎栄一	4. 巻 17
2. 論文標題 わたしの災害復興研究と分野における深化（法律学） 被災者支援法制の領域を中心に	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 復興	6. 最初と最後の頁 19-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） http://f-gakkai.net/uploads/gakkaiishi/17-2-1.pdf	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 金千秋	4. 巻
2. 論文標題 被災地における情報のあり方 - 臨時災害FMを通じて	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 熊本地震の現地調査報告会報告書	6. 最初と最後の頁 3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計70件 (うち招待講演 25件 / うち国際学会 18件)

1. 発表者名 YAMAJI Kumiko
2. 発表標題 Gender in Disaster Reduction and Recovery in JAPAN
3. 学会等名 Disaster Countermeasure and Recovery in New Zealand and Japan; Looking Back and Looking Forward; To academic exchange between NZ and Japan" (ニュージーランド・カンタベリー大学) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山地久美子
2. 発表標題 Re:START (リ・スタート) 社会ニュージーランド / カンタベリー地震後の生活再建と住宅
3. 学会等名 兵庫の防災・地域連携フォーラム2 / 第243回神戸大学都市安全研究センターオープンゼミナール
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山地久美子
2. 発表標題 日本の被災者支援レジームを国際的な視点から検討する
3. 学会等名 第5回震災問題研究交流会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山地久美子
2. 発表標題 阪神・淡路大震災・熊本地震の外国語災害語り部
3. 学会等名 海外から見た東日本大震災の経験/記録と伝承 International Perspective on Recording and Storytelling 311 Tsunami Disaster and Experiences 神戸大学都市安全研究センターオープンゼミナール(東北)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山地久美子
2. 発表標題 学生・市民のアクティブラーニング『伝えて、学ぶ』の取組
3. 学会等名 兵庫の防災・地域連携フォーラム3 / 第255回神戸大学都市安全研究センターオープンゼミナール
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山地久美子
2. 発表標題 第4回全国被災地語り部国際シンポジウムin熊本開催報告
3. 学会等名 第2回東北被災地語り部フォーラム2019(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 YAMAJI Kumiko
2. 発表標題 Gender in Disaster Reduction and Recovery
3. 学会等名 JICA研修「コミュニティ防災」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 YAMAJI Kumiko
2. 発表標題 Gender in Disaster Reduction and Recovery
3. 学会等名 JICA研修「災害に強いまちづくり戦略」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田間泰子
2. 発表標題 復興と防災をつなぐ母子支援 - 宮城県石巻市の経験を活かす大阪市での試み -
3. 学会等名 兵庫の防災・地域連携フォーラム2 / 第243回神戸大学都市安全研究センターオープンゼミナール (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 HOKUGO Akihiko
2. 発表標題 Town Planning, Vulnerability in Disaster
3. 学会等名 Disaster Countermeasure and Recovery in New Zealand and Japan; Looking Back and Looking Forward; To academic exchange between NZ and Japan” (ニュージーランド・カンタベリー大学) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山崎栄一
2. 発表標題 自然災害と自治体法務
3. 学会等名 京都行政法研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山崎栄一
2. 発表標題 自然災害における社会保障
3. 学会等名 福祉権研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 YAMASAKI Eiichi
2. 発表標題 Legal system for supporting disaster victims in Japan : Lesson and Problem from the Great East Japan Earthquake
3. 学会等名 banaqia災害法学シンポジウム(四川大学法学院)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 YAMASAKI Eiichi
2. 発表標題 Natural Disaster and Personal Information
3. 学会等名 Disaster Countermeasure and Recovery in New Zealand and Japan; Looking Back and Looking Forward ; To academic exchange between NZ and Japan ” (ニュージーランド・カンタベリー大学)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 YAMASAKI Eiichi
2. 発表標題 Natural Disaster and Personal Information
3. 学会等名 2018 Asian Law and Society Association (ALSA) conference (Law in the Asian Century)Bond University(AUS)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山崎栄一
2. 発表標題 ニュージーランド・カンタベリー地震から見る復興・減災活動
3. 学会等名 シンポジウム「兵庫五国の魅力と減災まちづくり」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 YAMASAKI Eiichi
2. 発表標題 Sharing of Personal Information in Natural Disaster
3. 学会等名 Asian Law and Society Association(ALSA)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山崎栄一
2. 発表標題 被災者総合支援法の提案
3. 学会等名 日本災害復興学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 金千秋
2. 発表標題 兵庫五国 防災・減災への取組み 多文化共生
3. 学会等名 シンポジウム「兵庫五国の魅力と減災まちづくり」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 北後明彦
2. 発表標題 地域における津波時の避難誘導のあり方-東日本大震災での経験から考える
3. 学会等名 第232回神戸大学都市安全研究センターオープンゼミナール
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 北後明彦
2. 発表標題 要配慮者利用施設における避難確保計画作成のポイント
3. 学会等名 第233回神戸大学都市安全研究センターオープンゼミナール
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Rosemary Du Plessis
2. 発表標題 Recording, Sharing and Learning from People 's Disaster Stories in 311 Tohoku, Japan and in 222 Canterbury Earthquake, New Zealand
3. 学会等名 海外から見た東日本大震災の経験/記録と伝承 International Perspective on Recording and Storytelling 311 Tsunami Disaster and Experiences 神戸大学都市安全研究センターオープンゼミナール(東北)(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Rosemary Du Plessis
2. 発表標題 Canterbury Earthquake Emergency Responses
3. 学会等名 第250回神戸大学都市安全研究センターオープンゼミナール(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Elizabeth Maly
2. 発表標題 海外の災害博物館
3. 学会等名 海外から見た東日本大震災の経験/記録と伝承 International Perspective on Recording and Storytelling 311 Tsunami Disaster and Experiences 神戸大学都市安全研究センターオープンゼミナール(東北)(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 YAMAJI Kumiko
2. 発表標題 Social Housing Policy and the Welfare State in Japanese Super-Aging-Society
3. 学会等名 第13回日中韓社会保障国際会議(中国南京市・南京大学)(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山地久美子
2. 発表標題 日韓災害研究の展望と課題 - 日本の住宅中心、被災者支援レジーム
3. 学会等名 日韓災害研究会(大韓民国ソウル特別市・国立古宮博物館)(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山地久美子 / 北後明彦
2. 発表標題 復興に社会環境変化をどう取り込めるのかー阪神・淡路大震災から23年経つ旧北淡町の経験 -
3. 学会等名 日本災害復興学会神戸大会2017(兵庫県神戸市・兵庫県立大学神戸商科キャンパス)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山地久美子
2. 発表標題 阪神・淡路 熊本 被災地語り部のネットワーク構築
3. 学会等名 被災地語り部ワークショップin益城町(熊本県益城町・益城町テクノ仮設団地みんなの家)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山地久美子
2. 発表標題 住民目線の防災・復興としての全国被災地語り部ネットワーク構築
3. 学会等名 第230回神戸大学都市安全研究センターオープンゼミナール(兵庫県神戸市・神戸市危機管理センター)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 YAMAJI Kumiko
2. 発表標題 Gender in Disaster Reduction and Recovery
3. 学会等名 JICA研修「コミュニティ防災(A)」(兵庫県神戸市・神戸国際協力交流センター)(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 YAMAJI Kumiko
2. 発表標題 Gender in Disaster Reduction and Recovery
3. 学会等名 JICA研修「災害に強いまちづくり戦略」(兵庫県神戸市・JICA関西)(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 IDA Kumiko
2. 発表標題 Neo-liberalism and Feminism: From the Viewpoint of Women's Agency
3. 学会等名 International Association for Feminist Economics 26th Annual conference (大韓民国ソウル特別市・誠信女子大学校) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 IDA Kumiko
2. 発表標題 Issues of women's advancement in Japan: Understanding of the Quality of Life of Young Women
3. 学会等名 European Association for Japanese Studies 2017Conference in Lisbon (ポルトガルリスボン・新リスボン大学) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 北後明彦
2. 発表標題 鶴住居 - 安全な住まいのために 熊本地震による益城町の被害調査結果から考える,
3. 学会等名 鶴住居の未来フォーラム (岩手県釜石市・鶴住居公民館)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 北後明彦
2. 発表標題 人のつながりで持続可能性を目指す
3. 学会等名 日韓災害研究会 (大韓民国ソウル特別市・国立古宮博物館) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 北後明彦
2. 発表標題 災害時の避難支援の課題解決に向けた研究
3. 学会等名 第11回「災害対策セミナーin神戸」(兵庫県神戸市・神戸国際会議場)(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山崎栄一
2. 発表標題 自治体の独自施策 - 被災者支援制度の将来像
3. 学会等名 2017年度地球惑星科学連合大会(千葉県千葉市・幕張メッセ)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山崎栄一
2. 発表標題 日本における教育機関の防災体制
3. 学会等名 日韓災害研究会(大韓民国ソウル特別市・国立古宮博物館)(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山崎栄一
2. 発表標題 避難所・避難生活に関する法制度の周知
3. 学会等名 避難所・避難生活学会(東京都千代田区・大手町ファーストスクエアカンファレンス)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 KIM Chiaki
2. 発表標題 Strengthening Women's Position in CR Status of PWomen in JapaneseCR
3. 学会等名 AMARC Asia Pacific Conference (タイバンコク・ラマ ガーデنزホテルバンコク) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 KIM Chiaki
2. 発表標題 Sustainability of CR Challenges and opportunity
3. 学会等名 AMARC Asia Pacific Conference (タイバンコク・ラマ ガーデنزホテルバンコク) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 金千秋
2. 発表標題 神戸まち中の語り部と音声アーカイブ
3. 学会等名 被災地語り部ワークショップin益城町 (熊本県益城町・益城町テクノ仮設団地みんなの家)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 金千秋
2. 発表標題 地域防災の必須要件、まちの多様性の認識を人々に落とし込むツールとしてのコミュニティメディア
3. 学会等名 神戸大学都市安全研究センターオープンゼミナール特別会in気仙沼 (宮城県気仙沼市・錦町コミュニティセンター)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小林郁雄
2. 発表標題 災害の語り継ぎを考える
3. 学会等名 被災地語り部ワークショップin益城町(熊本県益城町・益城町テクノ仮設団地みんなの家)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 池本啓二
2. 発表標題 23年経つ野島断層の現状と語り部
3. 学会等名 被災地語り部ワークショップin益城町(熊本県益城町・益城町テクノ仮設団地みんなの家)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 YAMAJI Kumiko
2. 発表標題 Disaster Recovery on Gender
3. 学会等名 Asian Dialogue、Pre Forum of the 2nd Asian Women's Network Forum(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 YAMAJI Kumiko
2. 発表標題 Disaster Situation and Plan for Reaction for Japan Rural Villages
3. 学会等名 International Symposium on Rural Disasters(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 山地久美子
2. 発表標題 被災地の状況と課題 これからの復興と南海トラフに備えて
3. 学会等名 熊本地震の現地調査報告会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 YAMAJI Kumiko
2. 発表標題 New Institutional Designs of Natural Disaster Victims focusing on Human Suffering
3. 学会等名 The 12th International Conference on Social Security
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 山地久美子
2. 発表標題 災害時外国人支援の発言要点
3. 学会等名 ミニシンポジウム「外国人支援と防災・減災への取組み」
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 山地久美子
2. 発表標題 災害教訓を活かすには～阪神・淡路、中越、東日本の経験から熊本地震、そしてその先～
3. 学会等名 日本居住福祉学会シンポジウム「災害と居住福祉」
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 山地久美子
2. 発表標題 震災遺構と語り部を考える
3. 学会等名 東北被災地語り部フォーラム（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山地久美子
2. 発表標題 報告者へのコメント
3. 学会等名 被災者支援制度の現状と課題 熊本地震・東日本大震災における事例紹介と提言（ジェンダーと災害復興研究会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山地久美子
2. 発表標題 被災地語り部の多様化 超高齢社会 / 異災地・未災地
3. 学会等名 第2回全国被災地語り部シンポジウム in 西日本
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山地久美子
2. 発表標題 防災を考える～地域のなかで、私にできること～
3. 学会等名 高石市平成28年度男女共同参画すてっぷ講座（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 YAMAJI Kumiko
2. 発表標題 Gender in Disaster Reduction and Recovery
3. 学会等名 JICA Course (招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 YAMAJI Kumiko
2. 発表標題 Gender in Disaster Reduction and Recovery
3. 学会等名 JICA Course (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 YAMAJI Kumiko
2. 発表標題 Gender in Disaster Reduction and Recovery
3. 学会等名 JICA (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山地久美子
2. 発表標題 女性の視点から災害を考える = 生涯学習の観点から
3. 学会等名 守口市市民教養講座 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 伊田久美子
2. 発表標題 新自由主義とフェミニズムの両義性
3. 学会等名 新自由主義の両義性と女性～その関係性を問う（「新自由主義の両義性と女性」研究会）（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 北後明彦
2. 発表標題 熊本地震の被害状況から学ぶ
3. 学会等名 平成28年度ひょうご防災リーダーフォローアップ研修（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 北後明彦
2. 発表標題 地震への備え - 熊本地震からの教訓を生かす
3. 学会等名 神戸大学都市安全研究センターオープンセンター2016
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 北後明彦
2. 発表標題 地震への備え～ 阪神・淡路大震災、東日本大震災、熊本地震からの教訓を生かす～
3. 学会等名 大阪消防振興協会・大阪市立阿倍野防災センター防災講演会2017（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山崎栄一
2. 発表標題 防災教育における法教育の現状
3. 学会等名 日本地球惑星科学連合 連合大会 2016年大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 山崎栄一
2. 発表標題 行政法学・震災法制の視点から
3. 学会等名 日本法社会学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 山崎栄一
2. 発表標題 災害救助法の制度改正に向けて
3. 学会等名 避難所・避難生活学会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計12件

1. 著者名 田間泰子・稲葉昭英・山田和代・筒井淳也・岩間暁子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 NHK出版	5. 総ページ数 264 (10-39、126-156、240-252)
3. 書名 リスク社会の家族変動	

1. 著者名 尾形健・遠藤美奈・辻健太・岡野八代・富江直子・藤澤宏樹・今川奈緒・山崎栄一・坂田隆介	4. 発行年 2018年
2. 出版社 日本評論社	5. 総ページ数 264 (161 188)
3. 書名 福祉権保障の現代的展開 生存権論のフロンティアへ / 第7章「自然災害における社会保障」	

1. 著者名 中井仁・山崎栄一他37名	4. 発行年 2018年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 586 (123-156)
3. 書名 教育現場の防災読本 / 第2章 「災害と法律（うち、「第4節 防災関連特別法の例 土砂災害防止法」は中井仁との共著）」	

1. 著者名 牟田和恵・古久保さくら・元橋利恵・荒木菜穂・（伊田久美子）・北村文・熱田敬子・岡野八代	4. 発行年 2018年
2. 出版社 中西印刷株式会社出版部 松香堂書店	5. 総ページ数 125(53-66)
3. 書名 『架橋するフェミニズム：歴史・性・暴力』 「イタリアにおけるフェミニズム運動の新たな動向：世代間継承の可能性」	

1. 著者名 Akihiko HOKUGO, Yuka KANEKO	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 95
3. 書名 Community-Based Reconstruction of Society	

1. 著者名 門田孝・井上典之・赤坂正浩・愛敬浩二・池端忠司・西土彰一郎・浅野博宣・上脇博之・井田洋子・(山崎栄一)・ほか10名	4. 発行年 2017年
2. 出版社 信山社出版	5. 総ページ数 455 (233-255)
3. 書名 『憲法の理論のその展開 浦部法穂先生古稀記念』 「自然災害と国家緊急権」	

1. 著者名 Faculty of Societal Safety Sciences Kansai University (YAMASAKI Eiichi and other)	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Butterworth-Heinemann	5. 総ページ数 334(161-176)
3. 書名 THE FUKUSHIMA AND TOHOKU DISASTER " Legal System for Supporting Disaster Victims"	

1. 著者名 神戸市 / こうべUD広場 (金千秋) ほか	4. 発行年 2017年
2. 出版社 神戸市	5. 総ページ数 12(3-4)
3. 書名 『地域で実践するユニバーサルデザイン事例集』 「多文化コミュニティを築くために」	

1. 著者名 下町芸術祭実行委員会 (金千秋) ほか	4. 発行年 2017年
2. 出版社 神戸アートコモンズ	5. 総ページ数 20(8)
3. 書名 下町芸術祭 公式パンフレット「下町芸術祭 それは未来形まちづくりの扉」	

1. 著者名 田間泰子、関川芳孝、中谷奈津子、山中京子、東優子、伊井直比呂、吉田敦彦、小野達也、嵯峨嘉子、松田博幸	4. 発行年 2017年
2. 出版社 せせらぎ出版	5. 総ページ数 284(62-73)
3. 書名 教育福祉学の挑戦	

1. 著者名 室崎益輝、岡田憲夫、中林一樹、野呂雅之、津久井進、山崎栄一ほか	4. 発行年 2016年
2. 出版社 法律文化社	5. 総ページ数 222(58-60)
3. 書名 災害対応ハンドブック	

1. 著者名 Yuka Kaneko, .Li Weiha, A Tolga Ozden and Burcak Erkanı, Kanongnij Sribuaiam, Ebinezor Florano Joe-Mar S. Perez and Abel Pyneiro, Eiichi Yamasaki, Tamiyo Kondo, Michael White, Wakana Takahashi, Takayuki Ii, Yuichi Honjyo, Katsumi Matsuoka, Elizabeth Toomy, Akihiko Hokugo, Yung-Fang Chen, Toshihisa Toyoda	4. 発行年 2016年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 333(163-177)
3. 書名 Asian Law in disasters	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>全国被災地語り部シンポジウムin西日本 https://www.facebook.com/1339563622769764/ 熊本地震(阪神淡路) https://www.facebook.com/1091797230863670/ 女性の復興カフェ https://www.facebook.com/joseinofukkoucafe/</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	伊田 久美子 (IDA KUMIKO) (20326242)	大阪府立大学・人間社会システム科学研究科・客員研究員 (24403)	
研究分担者	田間 泰子 (TAMA YASUKO) (00222125)	大阪府立大学・人間社会システム科学研究科・教授 (24403)	
研究分担者	北後 明彦 (HOKUGO AKIHIKO) (30304124)	神戸大学・都市安全研究センター・教授 (14501)	
研究分担者	山崎 栄一 (YAMASAKI EIICHI) (00352360)	関西大学・社会安全学部・教授 (34416)	
研究協力者	小林 郁雄 (KOBAYASHI IKUO)		人と防災未来センター 上級研究員
研究協力者	金 千秋 (KIM CHIAKI)		特定非営利活動法人エフエムワイワイ 代表理事
研究協力者	飯田 美奈子 (IIDA MINAKO)		オペラ・ディ・フィオーレ 代表
研究協力者	マリー エリザベス (MALY ELIZABETH) (00636467)	東北大学・災害科学国際研究所・准教授 (11301)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	デュ プレシス ローズマリー (Du Plessis Rosemary)		Adjunct Associate Professor Sociology and Anthropology, University of Canterbury, New Zealand
研究協力者	邵 珮君 (SHAO PEI-CHUN)		長栄大学地管理與開發學系 教授
研究協力者	白 眼浩 (BAEK MIN-HO)		江原大学消防防災学部 教授
研究協力者	森 康成 (MORI YASUSHIGE)		北淡震災記念公園震災の語りべボランティア
研究協力者	米山 正幸 (KOMEYAMA MASAYUKI)		北淡震災記念公園 総支配人
研究協力者	池本 啓二 (IKEMOTO KEIJI)		野島断層保存館 部長
研究協力者	阿部 憲子 (ABE NORIKO)		南三陸ホテル観洋 女将
研究協力者	伊藤 俊 (ITO SHUN)		南三陸ホテル観洋 語り部